

プラド美術館全面協力作品

謎の天才画家

ヒエロニムス・ボス



プラド美術館全面協力! 没後500年、生年月日不明、現存する作品は25点のみ。
美術史上もっとも異彩を放つ奇想ワールドを描いたヒエロニムス・ボス。
“悪魔のクリエイター”とも呼ばれる謎多き画家の素顔とは——?



2018年3月30日(金)

国立西洋美術館 講堂 (企画展示館地下2階)

① 14:00 ~ (開場 13:30)

② 18:00 ~ (開場 17:30)

◎日本語字幕 90分



開催中の「プラド美術館展」の
チケットが必要です。(半券も可)

各回定員 130人

※当日、各回の開演1時間前より本館1階東口付近(企画展示館に降りる階段付近)にて整理券を配付いたします。場所が不明な場合は、インフォメーションでお尋ねください。おひとり1枚まで。

開催中の「プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」に関連して、プラド美術館全面協力のもと2016年に制作された、映画「謎の天才画家 ヒエロニムス・ボス」の上映会を行います。プラド美術館所蔵のヒエロニムス・ボス《快楽の園》の謎に迫る知的ドキュメンタリー映画です。プラド美術館の館内の雰囲気も感じていただける作品ですので、展覧会と合わせてお楽しみください。

注意: 「プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」には、ヒエロニムス・ボスの作品は出品されません。

作品介绍

ヒエロニムス・ボス。15~16世紀のネーデルランドで活躍した天才画家で、その人物像、生年月日も不明。現存する作品は25点のみと、謎に満ちた人物である。彼の作品群の中で最高傑作にして美術史上最も異彩を放つ作品とされるのが、プラド美術館が所蔵する三連祭壇画『快楽の園』。ボス研究者をして決定的な解釈のなされていない難解かつ魅惑の作品は、エロチックでグロテスクな“天国と地獄”が所狭しと描かれた奇想天外な世界。

ボス没後500年を迎え、プラド美術館全面協力のもと、ドキュメンタリー作家のホセ・ルイス・ロペス＝リナレスが、この大作をカメラに収めることを許可される。静寂に包まれた夜の美術館に招かれたのは、ボス研究家の第一人者であるラインダー・ファルケンブルグ、ノーベル賞作家のオルハン・パムク、プラノ歌手ルネ・フレミングなど、各界の知識人たち。謎を解明しようと『快楽の園』と対峙するものの、膨大な情報量と圧倒的なパワーに言葉を失い、寓意に満ちた幻想の世界に没入していく。

カメラは“悪魔のクリエイター”とも呼ばれたボスの創作の謎と素顔に迫る。赤外線分析で判明した下絵、緻密な筆遣いと顔料の秘密、現代に受け継がれなかった古楽器、そしてキリスト教との深い関係。多方面の専門家の解説から『快楽の園』に込められた思想と、先進的な知識人だったボスの情熱が垣間見える。緻密な筆遣いで謎をちりばめた『快楽の園』を、大画面の迫力で体感する極上の90分間。今、ここに開帳!

当日はプラド美術館展特設ショップにて、

「謎の天才画家 ヒエロニムス・ボス」DVD【¥3,000(税込)】を先行販売します。



監督:ホセ・ルイス・ロペス＝リナレス
製作:ロペス＝リ・フィルムズ、プラド美術館
出演:ラインダー・ファルケンブルグ、オルハン・パムク、サルマン・ラシュディ、
セース・ノーテボーム、ルネ・フレミング
2016年/スペイン・フランス映画/英語・スペイン語・フランス語・中国語/
16:9/5.1ch/90分
原題:El Bosco. El jardín de los sueños
英題: Bosch, The Garden of Dreams
© Museo Nacional del Prado © López-Li Films
配給:アルバトロス・フィルム

公式サイト: bosch-movie.com

※やむを得ない事情により、内容を変更または中止する場合がございますので予めご了承ください。

VELÁZQUEZ
 AND THE CELEBRATION OF PAINTING:
 THE GOLDEN AGE IN THE MUSEO DEL
 PRADO

日本スペイン外交関係樹立150周年記念

 プラド美術館展
 ベラスケスと絵画の栄光

[企画展示室]

2018年2月24日(土) — 5月27日(日)

休館日 | 月曜日

*ただし、3月26日(月)と4月30日(月)は開館

◆展覧会公式サイト <http://prado2018.yomiuri.co.jp>
 ディエゴ・ベラスケス
 《王子バルタサル・カルロス騎馬像》1635年頃
 マドリード、プラド美術館蔵 ©Museo Nacional del Prado

 ディエゴ・ベラスケス
 《狩猟服姿のフェリペ4世》1632-34年
 マドリード、プラド美術館蔵 ©Museo Nacional del Prado

マドリードにあるプラド美術館は、スペイン王室の収集品を核に1819年に開設された、世界屈指の美の殿堂です。本展は、同美術館の誇りであり、西洋美術史上最大の画家のひとりであるディエゴ・ベラスケス(1599-1660年)の作品7点を軸に17世紀絵画の傑作など61点を含む70点をご紹介します。

17世紀のスペインは、ベラスケスをはじめリベラ、スルバランやムリーリョなどの大画家を輩出しました。彼らの芸術をはぐくんだ重要な一因に、歴代スペイン国王がみな絵画を愛好し収集したことが挙げられます。国王フェリペ4世の庇護を受け、王室コレクションのティツィアーノやルーベンスの傑作群から触発を受けて大成した宮廷画家ベラスケスは、スペインにおいて絵画芸術が到達した究極の栄光を具現した存在でした。本展はそのフェリペ4世の宮廷を中心に、17世紀スペインの国際的なアートシーンを再現し、幅広いプラド美術館のコレクションの魅力をたっぷりとお楽しみいただけます。


 ワシリー・カンディンスキー
 《小さな世界1》1922年
 国立西洋美術館

[版画素描展示室(新館2階)] 2018年2月24日(土)~5月27日(日)

マーグ画廊と20世紀の画家たち—美術雑誌『デリエール・ル・ミロワール』を中心に

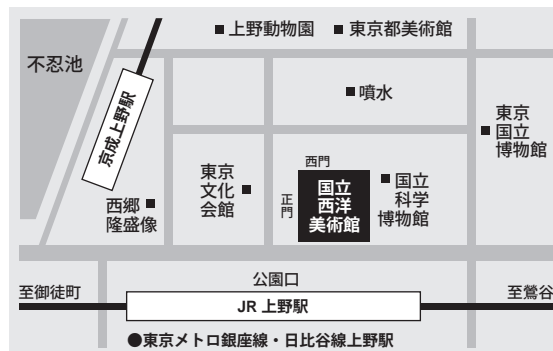
パリのマーグ画廊は、エメ・マーグとその妻によって1945年に設立されました。20世紀を代表する芸術家たちと親交を結ぶとともに、若手の芸術家にも積極的に発表の機会を提供することで、マーグ画廊は戦後フランスにおいて同時代美術を牽引する大画廊へと成長を遂げます。もともとリトグラフの刷り師で、小さな版画工房を営んでいたマーグは、出版・印刷事業にも情熱を注ぎ、1946年に美術雑誌『デリエール・ル・ミロワール』を創刊します。この雑誌は、マーグ画廊で開催される展覧会に合わせて編集された展覧会カタログでもあり、1982年の終刊までに全253号が刊行されました。上質な版画による複製図版や、同時代の名だたる文筆家による詩や評論などが組み合わせられ、また、同誌のために新たに制作されたオリジナルのリトグラフが数多く収録されました。本展では、『デリエール・ル・ミロワール』に登場するマーグ画廊とゆかりの深い画家たちの中から、ボナール、マティス、ブラック、シャガール、ミロ、カンディンスキーの6人を取り上げます。画廊主マーグとそれぞれの画家たちとの関係に光を当てながら、『デリエール・ル・ミロワール』に収録されたリトグラフを含む約50点の作品を通して、新しい芸術表現を目指した20世紀美術の世界をご紹介します。

国立西洋美術館 The National Museum of Western Art

国立西洋美術館ではフランス近代の絵画・彫刻を中心とした「松方コレクション」を基礎とし、14世紀から20世紀半ばまでの西洋の美術作品の展示を行っています。2016年7月、「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」の構成資産のひとつとして世界文化遺産に登録されました。

JR 上野駅下車(公園口出口) 徒歩1分
 京成電鉄京成上野駅下車 徒歩7分
 東京メトロ銀座線、日比谷線上野駅下車 徒歩8分
 ※美術館には駐車場はありません。

お問い合わせ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

国立西洋美術館ホームページ <http://www.nmwa.go.jp/>

金曜日・土曜日は 20:00 まで開館 (入場は 19:30 まで)